

教育研究業績書

2016年10月01日

所属：生活造形学科

資格：准教授

氏名：西田 徹

研究分野	研究内容のキーワード
建築計画学	環境行動
学位	最終学歴
博士（工学）, 工学修士, 工学士	東京大学大学院 工学系研究科 建築学専攻第1種 博士課程 満期退学

教育上の能力に関する事項		
事項	年月日	概要
1 教育方法の実践例		
1. 体育祭実行委員会室のリフォーム改善計画と実施	2015年8月	限られた面積での使い勝手や委員会活動環境として大きな問題のあった体育祭実行委員会室について、総務委員会顧問及び人間・環境デザインの専門家として立場から、実行委員長ら学生の希望と活動内容をヒアリングし、リフォーム計画を学生らと共に作成し、竹中工務店に施工を依頼、業者に家具の発注を行う。改修により、以前より、アクティビティの活性化が見られた。
2. 文化祭実行委員会室のリフォーム改善計画と実施	2015年3月	限られた面積での使い勝手や委員会活動環境として問題のあった文化祭実行委員会室について、総務委員会顧問及び人間・環境デザインの専門家として立場から、実行委員長ら学生の希望と活動内容をヒアリングし、リフォーム計画を学生らと共に作成し、竹中工務店に施工を依頼、業者に家具の発注を行う。改修により、以前より、アクティビティの活性化が見られた。
3. 製図室におけるノートパソコン環境の整備・運営	2013年9月15日から2014年9月1日	設計製図の授業中において、製図室でパソコンを利用し、CADやCGソフトを用いて設計を行う能力を身につけることを目的とした環境整備を行った。
4. MM601教室 実習関連資料（図書・雑誌など）の整備	2011年9月から現在	過去の学生卒業制作作品（短大2年後期・自由創作C）のレポートの合本を書棚に保管し、制作の参考にするために、授業中に閲覧できる様にした。また、パソコン関連の操作マニュアル、デザイン関係の定期購読雑誌（日経デザイン、イラストレーター、AXIS、宣伝会議、ブレインなど）から最新情報・技術を得ることができるようにした。一部のマニュアルは授業外の自主学習でも利用できる様に整備している。
5. H3-401教室コンピュータ演習システムの再構築	2011年10月1日から2012年9月30日	本教室は、主に学生のパソコンを利用した自主学習の為に構築されたものである。従来のデザイン系ソフト（VectorWorks, Illustrator, Photoshopなど）に加え、新たにアパレル系のCADソフト（東レCCLite）を導入し、就職や企業における実践力の強化をはかっている。
6. MM601・603コンピュータ実習室の再構築	2011年	インテリア・建築・アパレルのコンピューター実習に関する最新の構築を行った。旧来のシステムを継承しつつ、2教室合同授業を行えるように、また、大型スクリーンの導入によって図面などの入力環境を整えた。
2 作成した教科書、教材		
1. 「《生活環境学の知》を考える」シリーズ3 生活をデザインする	2011年9月	共通教育科目「生活のデザイン」（横川公子・黒田智子・西田徹の各5回担当のオムニバス科目）の教科書として使用。 担当部分：第4章地域のデザイン第1節「個」と「地域」との関わり（1）環境行動学の視点から（2）生活デザインのカスタマイズとメンテナンス（3）地域の居場所 pp.101-107
2. 生活環境学科・生活造形学科 2005～2009年度学生作品集	2006年03月から2010年03月まで	2005年度版は学生作品集の第1号で、西田徹、綱本琴、奥田有美、宮本奈央美、谷敬子、東真美が編集委員となり、ゼミや授業担当の学科教員・助手の力を借りて、作品写真や文章などを収集した。編集委員が版下原稿を作成し、発行したものである。大学・短大の学生が実習の授業で制作した優秀な作品などが掲載されているテキストで、実習の参考資料としても活用できる。現在も毎年発行しており、2009年度まで編集委員を務めた。
3 実務の経験を有する者についての特記事項		
4 その他		
1. 箕面自由学園での模擬授業	2016年3月12日	箕面自由学園において、2年生6名に対し、建築デザイン分野の魅力について、レジュメやパワーポイントを用いて具体的に解説を行った。特に、生活者の視点から住宅のデザインを行うことについて、分かりやすく説明した。
2. 手工芸部の夏合宿参加・指導	2015年9月	手工芸部の部長として、2泊3日の夏合宿（丹嶺学苑研修センター）に参加し、部員を指導すると共に手工芸の技術の共有や更なる技術修得を目指したものの。
3. 手工芸部の夏合宿参加・指導	2014年8月28日から8月30日	手工芸部の部長として、2泊3日の夏合宿（丹嶺学苑研修

教育上の能力に関する事項		
事項	年月日	概要
4 その他		
4. 手工芸部の夏合宿参加・指導	2012年8月5日から8月7日	センター)に参加し、部員を指導すると共に手工芸の技術の共有や更なる技術修得を目指したものの。 手工芸部の部長として、2泊3日の夏合宿(丹嶺学苑研修センター)に参加し、部員を指導すると共に手工芸の技術の共有や更なる技術修得を目指したものの。
5. 兵庫県立伊丹北高等学校 第12回総合学科発表会に参加・コメント	2012年02月08日	兵庫県立伊丹北高等学校から招待され、第12回総合学科発表会に参加し、生徒たちの発表に対してコメントを行ったもの。「総合学科発表会」は、毎年2月、総合学科の1年間の学びを発表しているもので、1年次の「産業社会と人間」、2・3年次の「総合的な学習の時間」科目についての取り組みを展示発表と舞台発表によって報告しているものである。
6. 兵庫県立伊丹北高等学校での模擬授業	2011年09月22日	伊丹北高等学校において、1回目20名、2回目10名の生徒に対し、生活科学分野の魅力について、「暮らしをつくるたのしみ」というテーマで、生活者の視点から住宅のデザインを行うことについて、分かりやすく解説を行った。
7. 2011年第6回月山志津温泉雪旅籠の灯りのワークショップに参加・協力	2011年02月22日から02月26日	昨年度参加したことから、六十里越街道雪まつり 月山志津温泉雪旅籠の灯り実行委員会から協力依頼があり、4泊5日のワークショップに、ゼミ生2名とともに、参加・協力したもの。
8. 2010年第5回月山志津温泉雪旅籠の灯りのワークショップに参加	2010年2月24日から2月27日	松本年史(東北芸術工科大学教授・(現在・共立女子大学教授))から月山志津温泉雪旅籠の灯りのワークショップへの協力依頼があり、ゼミ生4名とともに、参加したもの。このイベントは、降り積もった6mもの雪を削り、雪旅籠の街並みを手作りで作するというもので、雪深い地域の特性を生かしており、「第13回ふるさとイベント大賞」最高賞など、各種賞を受賞している
9. 兵庫県立芦屋高等学校での模擬授業	2010年11月25日	芦屋高等学校において、生徒20名に対し、「身近な生活環境」というテーマで講義を行ったもの。特に、生きていく上で大切なこと=環境づくりという視点から科学的に解説した。
10. 兵庫県立宝塚高等学校での模擬授業	2010年11月18日	宝塚高等学校において、1回目18名、2回目19名の生徒に対し、生活科学(インテリア・建築デザイン分野)の魅力について、レジュメやパワーポイントを用いて解説を行った。特に、生活者の視点から住宅のデザインを行うことについて、分かりやすく解説を行った。
11. 兵庫県立北摂三田高等学校での「一日大学体験講座」	2006年07月14日	北摂三田高等学校において「一日大学体験講座」を行ったもの。「人間と環境との関係を考える」というテーマで、講義を行った。
12. 大阪府立刀根山高等学校での模擬授業	2006年05月18日	刀根山高等学校において、2年生7名に対して、食物栄養学以外の生活科学分野について幅広く講義を行った。
13. 兵庫県立北摂三田高等学校での「一日大学体験講座」	2005年07月15日	北摂三田高等学校において、「一日大学体験講座」をおこなったもの。「人間と環境との関係を考える」というテーマで、講義を行った。
14. 兵庫県立宝塚西高等学校での模擬授業	2004年12月20日	宝塚西高等学校において、15名の生徒に対して、生活科学分野の「環境心理学的視点から生活を考える」というテーマで講義を行った。
15. 京都府立西城陽高等学校での模擬授業	2003年10月22日	西城陽高等学校において、2年生8名に対して、生活科学分野の「インテリア空間の考え方について」というテーマで講義を行った。
16. TOKYO DESIGNER'S WEEK 学生作品展への参加・サポート	2003年04月から2010年11月	TOKYO DESIGNER'S WEEKというインテリア系のイベントの歴史は長いですが、2001年に学生作品展が始まり、2002年にO SAKA DESIGNER'S WEEKが始まり、それをきっかけに、2003年から8回にわたり、武庫川女子大学・生活環境学科・生活造形学科の有志が、椅子などの作品を学生作品展に出展する様になった。その活動を森幹雄先生らと共にサポートした。

職務上の実績に関する事項		
事項	年月日	概要
1 資格、免許		
2 特許等		
3 実務の経験を有する者についての特記事項		
1. エリアマネジメント・モデルとしてのリノベーション～三草二木西園寺と三草二木行善寺の調査	2015年9月	2015年度「ライフスタイル研究会」において、石川県の小松市において、廃寺をリノベーションして福祉施設を運営する三草二木西園寺などを訪れ、新しい福祉施設運営やリノベーションについて調査を行う。住宅政策団体連合会が発信する「住宅・住まいWeb」上の「ライフスタイルと住まい・まち」で内容を公開。
2. 福祉施設を核としたエリアマネジメント～社会福祉法人佛子園	2015年9月	2015年度「ライフスタイル研究会」において、石川県の金沢市において、「シェア金沢」など、様々な福祉施設

職務上の実績に関する事項		
事項	年月日	概要
3 実務の経験を有する者についての特記事項		
3. 創造的過疎を目指す～徳島県神山町NPO法人グリーンバレー	2015年1月	の運営を行う社会福祉法人佛子園の事業内容について、インタビュー調査とインタビュー調査を行う。住宅政策団体連合会が発信する「住宅・住まいWeb」上の「ライフスタイルと住まい・まち」で内容を公開。 2014年度「ライフスタイル研究会」において、徳島県神山町において、地方移住推進の現状調査を行う。神山町に移った会社や移住をサポートするNPO法人グリーンバレーの代表にインタビュー調査を行う。住宅政策団体連合会が発信する「住宅・住まいWeb」上の「ライフスタイルと住まい・まち」で内容を公開。
4. きみの定住を支援する会～和歌山県紀美野町ワンストップパーソン	2015年1月	2014年度「ライフスタイル研究会」において、和歌山県紀美野町において、地方移住推進の現状調査を行う。紀美野町に移住された方と役所の方にインタビュー調査を行う。住宅政策団体連合会が発信する「住宅・住まいWeb」上の「ライフスタイルと住まい・まち」で内容を公開。
5. 20世紀の成熟した住宅地に暮らす（2）レッチワースの現在	2013年8月	2013年3月、生活環境・生活造形学科主催で行ったヨーロッパ海外研修で田園都市論として有名なイギリスのレッチワースを訪れ、現地の現況報告を「ライフスタイル研究会」で行う。住宅政策団体連合会が発信する「住宅・住まいWeb」上の「ライフスタイルと住まい・まち」で内容を公開。
6. 隼より始める都心居住	2010年8月	2010年度「ライフスタイル研究会」において、自身が計画・設計に関わった自邸のコンセプト「まちに開く住まい方」や都心居住についてインタビューを受ける。住宅政策団体連合会が発信する「住宅・住まいWeb」上の「ライフスタイルと住まい・まち」で内容を公開。
4 その他		
1. 高齢期の住まいづくり	2014年9月4日	尼崎市立総合老人福祉センターで実施している公開講座の講演依頼。「高齢期の住まいづくり」をテーマに、高齢期の住宅のリフォームについてやバリアフリー化の問題点、防犯対策などについて講演を行った。
2. まちなかの居場所一つながり・住まい・まちー	2012年6月7日	尼崎市立総合老人福祉センターで実施している公開講座の講演依頼。「まちなかの居場所」をテーマに、高齢期にかぎることではないが、まちなかに自分の居場所を持っていること、人・まちとつながりをもつこと、その重要性や事例紹介などを中心に講演を行った。
3. 住の科学ー高齢者にやさしい住まいー	2011年08月04日	尼崎市立総合老人福祉センターで実施している公開講座の講演依頼。「高齢者にやさしい住まい」をテーマに、高齢者にとってやさしい住まいとは何か、そのポイントや事例紹介などを中心に講演を行った。
4. 環境心理入門	2007年10月23日	ひょうご講座のなかで、生活環境学科の教員が全8回で行った「人と生活と環境ー衣・住環境から都市環境までー」の7回目「環境心理入門」を担当し、環境心理学についてやさしく解説を行った。
5. 居場所をつくる・・・場所をカスタマイズする	2003年09月20日	高橋鷹志＋チームEBS編著、環境行動のデータファイル、彰国社、2003、p.122において、西田徹ほか「新潟市における環境行動的研究 その3」日本建築学会学術講演梗概集、1998からの図版の引用。
6. 親と子の建築講座「なぜ、西大畑は美しいのだろう？」・・・カメラをもってまちにでよう！	1998年9月26日	(社)日本建築学会 北陸支部新潟支所および(社)新潟県建築士会が主催する「親と子の建築講座」の講師依頼。小学生を対象にして、新潟市の「西大畑」地区において、ボラロイドカメラをもちいたワークショップを開催した。

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
1 著書				
1. (仮称) まちの居場所 2	共	2017年3月 (刊行予定)	鹿島出版会	日本建築学会編 在塚礼子 鈴木毅 西田徹 小松尚 橋弘志 石井敏 三浦研蔵 松原茂樹 垣野義典 吉住優子 小林健治 田中康裕 林田大作 2010年に刊行した「まちの居場所」の続編として、「まちの居場所」研究WG(主査林田大作)が中心となり、その後の居場所の変化や論考などをまとめたもの。 担当部分：おわりに
2. 「《生活環境学の知》を考える」シリーズ3 生活をデザインする	共	2011年09月	光生館	横川公子編著：磯映美、森本真、森ゆかり、大塚滋、荒井三津子、井上麻美子、井上雅人、松本由香、坂口健二郎、玉置育子、村田裕子、西田徹 日常の暮らしを客観化し抽象化することにより、総合的で情緒的な暮らしの現場に、分析的・合理的な根拠を求めて再構築することでデザインの提案を試みたもの。 担当部分：第4章地域のデザイン第1節「個」と「地域」との関わり pp101-107

研究業績等に関する事項

著書、学術論文等の名称	単著・ 共著書別	発行又は 発表の年月	発行所、発表雑誌等 又は学会等の名称	概要
1 著書				
3. まちの居場所 まちの居場所をみつける／つくる	共	2010年11月	東洋書店	日本建築学会編：岩佐明彦 大野隆造 加藤悠介 小松尚 佐藤将之 鈴木毅 橋弘志 田中康裕 西田徹 橋本雅好 林田大作 松原茂樹 吉住優子 日本建築学会の環境行動研究小委員会傘下の場所研究WGのメンバーが中心となってまとめた書籍である。筆者はWGの主査を務めた。この本では居場所が物理的にまちのなかにある社会的意味や価値を理論的に説明すると同時に、19の事例紹介と実践者のインタビューも掲載している。担当部分：はじめにiii~iv おわりにp.224
4. 住まいのりすとら	共	2010年01月	東洋書店	ライフスタイル研究会編著：鈴木毅、西田徹、松村秀一、佐藤考一 住まいとその設計・計画に関わる専門家や新しいタイプのサービス提供者・実践者、文学・歴史研究者、家族論評論家はじめ、広く住まいに関わる人々、さらに様々な生活者への、インタビュー取材・座談会・フィールドワークを積み重ね、2000年代の日本の住まいをめぐる現実と動向、生の声と考え方を集積したルポルタージュ記録集である。 担当部分：はじめに 個人のライフスタイルから「まち」の多様性が見たいV`Vii 第1章 ライフスタイルを思考する 考現行1インタビュー「沖縄移住者三人のライフスタイル」pp.57-71、第4章 「つくる生活」のライフスタイル 考現行4座談会「DIYというライフスタイルを調べてみよう」他多数
5. 建築デザイン用語辞典	共	2009年12月	井上書院	土肥博至監修、建築デザイン研究会編著：花田佳明、小玉祐一郎、笠原一人、西田徹 他多数 学生や若いデザイナーに向け、計画・都市計画、設計、構法、構造力学、施工、材料、環境工学、設備、建築史、思想、人名に加え、国内外の建築や都市空間等の作品を含む広範な分野から約4600語を収録している。基本的な用語はもちろんのこと、設計、企画、計画分野の用語も充実させている。 担当部分：建築確認申請・建築基準法・建築基準法施行令 (p.125)、避難階・避難階段・避難通路 (p.312) などの建築基準法に関する用語
6. 食玩展 象徴としての生活文化を あやつるもの	共	2007年7月21日	武庫川女子大学資料館 展示図録	横川公子・森田雅子・西田徹・山本泉・北村薫子・櫻谷かおり・延藤久美子・岡田春香・野田仁美 武庫川女子大学資料館図録として、発行する。食玩とは何か、食玩の系譜、食玩の色彩と素材、食玩の箱の中身と容器、食玩の形と食感などについて、記述・解説する。担当部分：p.14食玩回収の試みから分かったこと
7. 人間－環境系のデザイン	共	1997年05月	彰国社	日本建築学会編：高橋鷹志・門内輝行・舟橋國男・鈴木毅・西田徹 他多数 人びとの日常生活とそれが展開している場所の形成・維持・更新に必要な知識・方法・実践に関わる人間－環境系デザインの的方法論を探求している。 担当部分：第3章第7節「まちづくりハウスによる参加のデザインーデザインゲームの方法」である。p.p.208-231
8. 建築大辞典 第二版	共	1993年06月	彰国社	著者多数 建築大辞典の第一版を改定するに際して、建築計画の立場から重要と思われる単語の追加の作業に関わる。担当部分は「ペンシルビル」などの語句 p.1515他
9. 建築単位の事典	共	1992年10月	彰国社	建築単位の事典研究会編 真鍋恒博、長澤泰、鈴木毅、山下哲郎、西田徹、直井英雄ほか多数 建築の専門分野で使われている様々な単位を建築を読み解くキーワードとして捉え、一項目ずつ詳しく解説したものである。 担当部分：人口密度、容積率の項目 pp.72-75
2 学位論文				
1. 地域空間における環境行動的研究	単	2001年10月18日	東京大学大学院工学系 研究科委員会	西田徹 本論文では、地域空間の価値や意味が個人のどの様な働きかけによって生まれ、持続しているのかについて調べ、その生き生きとした実態を探ることに成功した。またそのための調査分析方法の可能性を示した。この様な環境行動的研究は、住民1人1人がまちの主体になり、人々と都市環境との豊かな関係が持続されるような本来のまちづくりを進め、生活の質の向上につなげるためのものとして位置づけられる。
3 学術論文				
1. 環境配慮型生活における生活質感 評価法の研究Ⅰー生活モデル模索	共	2008年	武庫川女子大学紀要. 人文・社会科学編 56,	横川公子、森田雅子、岡田春香、黒田智子、佐々尚美、鈴木優里、富田高代、中谷幸世、水野優子、山

研究業績等に関する事項

著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
3 学術論文				
への覚書―			147-156	本泉、西田徹 生活環境学科生活質感研究会（横川公子代表）は様々な生活領域の生活質感の評価法を策定し、環境配慮型生活モデルや生活質感の向上を模索するために設立された。本報告はその覚え書きである。
2. 食玩回収の試みから見えるもの	単	2006年12月	季刊道具学15号（FORUM DOUGUOLOGY・道具学論集 第13号），pp86-91	西田徹 リサイクルへの前段階として不用になった食玩の回収を試み、その実態について調査・考察したものである。
3. 現代日本の生活文化における食玩（おまけ）に関する序説	共	2006年12月	季刊道具学15号（FORUM DOUGUOLOGY・道具学論集 第13号），pp76-85	横川公子、森田雅子、西田徹、山本泉、北村薫子、櫻谷かおり、延藤久美子、岡田春香 現代日本の生活文化における食玩の位置について、食玩の存在様態に注目することにより、生活文化学的に解明し、生活文化に関する切り口と展望を提案。販売促進用のおまけに端を発したミニチュアであり、玩具や菓子の枠を超えてコンビニやスーパーで販売。子供のみならず大人を巻き込んだマニアを排出。日本的な情景や生活、テレビアニメのキャラクターに取材し、時代と社会の鏡となっていることを見通す。
4. （学位論文）地域空間における環境行動的研究	単	2001年10月18日	東京大学大学院工学系研究科委員会	西田徹 本論文では、地域空間の価値や意味が個人のどのような働きかけによって生まれ、持続しているのかについて調べ、その生き生きとした実態を探ることに成功した。またそのための調査分析方法の可能性を示した。このような環境行動的研究は、住民1人1人がまちの主体になり、人々と都市環境との豊かな関係が持続されるような本来のまちづくりを進め、生活の質の向上につなげるためのものとして位置づけられる。
その他				
1. 学会ゲストスピーカー				
1. まちの居場所をみつける／つくる	共	2011年01月	人間・環境学会 第93回研究会	西田徹、田中康裕、小松尚、畑倫子、呉宣児 「まちの居場所」は、人と人が「居場所」という人間・環境を媒介にして、人と人がふれあい、結びつき、新しい世界を創造したり、生活を豊かにしたりする可能性をもった場所である。この研究会では、その様な人間・環境系としての「居場所」の質について、最新の居場所づくりの事例をもとに発表を行う。さらに、心理学的側面からも議論を行い、居場所づくりの新たな価値・可能性の発見を目指したい。 担当部分：司会進行・主旨説明
2. 「利用」の時代の建築学へー建築計画にとって何が課題になり得るか？ー	共	2010年09月10日	日本建築学会建築計画委員会 研究協議会	黒野弘靖、松村秀一、北川大祐、星名康弘、大原一興、馬場正尊、鈴木毅、菊地成朋、森田芳朗、西田徹 現在の日本では、建物が余り始め、総世帯数は縮小を続けている。有り余る既存建築物内外の空間をいかに豊かな居住空間に仕立て上げ、継続していけるのか、その実践とそれを支える建築学を探る一つのキーワードとして、「利用の構想力」がある。建築計画にとって何が課題になり得るのか、最近のストック利用の動きを確認し、考察することを目的とする。担当部分：副司会
3. 地域空間における環境行動的研究	共	2002年01月09日	日本建築学会 第5回環境心理生理・環境行動研究小委員会「合同研究会「まち」環境へのまなざし」	宇治川正人、橘弘志、高橋正樹、若林直子、西田徹、伊東利彦、三船康道、鈴木毅、平手小太郎 環境心理・行動研究は、環境工学、建築計画、都市計画、建築材料などの様々な分野と関わりがあり、それら諸分野と交流するため、大会学術講演会とは別の機会を設けて、研究会を開催してきた。第5回は、「まち」や「まちづくり」をキーワードに取り上げ、実務と研究、および様々な専門分野との意見交換を行った。研究会は、2部構成とし、第1部は研究発表、第2部はパネルディスカッションとする。「人間－環境系からみた「まち」環境の問題について」、「人間－環境系からみたまちづくりへの提言」、「まちづくりと人間－環境系の研究」を検討した。担当部分：研究発表、および、パネラーとして参加。
2. 学会発表				
1. コミュニケーションツールとしての都市住宅	単	2011年01月09日	2010年度（第14回）道具学会研究発表フォーラム 口頭発表梗概集，2011年3月31日発行，pp. 27-29	西田徹 私が基本設計を行ったN邸をケーススタディーハウスとして、都市に開かれていることを意図して設計した住宅が、他者との様々なコミュニケーションを誘発していることを具体的に明らかにしている。
2. 食玩とまちづくり	共	2010年01月	道具学会	横川公子・西田徹 食玩研究会の一連の研究結果として発表。

研究業績等に関する事項

著書、学術論文等の名称	単著・ 共著書別	発行又は 発表の年月	発行所、発表雑誌等 又は学会等の名称	概要
2. 学会発表				
3. 広場におけるタマリバのかたち	共	2006年05月2 3日	日本建築学会近畿支部 研究報告集, 計画系, 巻号: (46), ページ : 81-84	西羅敬子・西田徹 広場の中でも特に人が利用している場所に注目し, その場所の形状や人が溜まるきっかけ, 安心してく つろげる要因などの共通点を見つけ出し, 屋外にお けるオープンスペースの魅力の要素を導き出してい る。
4. まちにとって必要な小さな存在一 大阪市福島区福島を通して一	共	2005年07月3 1日	日本建築学会学術講演 梗概集. E-1, 建築計画 I, 巻号: 2005, ページ : 989-990	森夕貴・西田徹 大阪市福島区福島は梅田に隣接した都心部に位置し , オフィスビルも多いが, マンションや長屋も多く 存在する下町である。西梅田とは異なるかたちで変 化しつつある福島のまちを調査することで, もっと そのまちらしい変化の方法を探ることを目的として いる。
5. まちにとって必要な小さな存在一 大阪市福島区福島を通して一	共	2005年05月2 3日	日本建築学会近畿支部 研究報告集, 計画系, 巻号: (45), ページ: 2 89-292	森夕貴・西田徹 福島ではここ数年, 小規模な店舗が少しずつ増加し ている。一方西梅田は大規模な再開発ラッシュであ る。西梅田とは異なるかたちで変化しつつある福島 のまちを調査することで, もっとそのまちらしい変 化の方法を探っている。
6. 自律的なまちづくりの継続: 長 崎県島原市を事例として	共	2003年7月30 日	日本建築学会学術講演 梗概集. F-1, 都市計画 , 巻号: 2003, ページ : 717-718	隈部裕子・西田徹・中山徹 自律的なまちづくりコミュニティと地域既存のコミ ュニティの秩序だった関係が, これからの自律的ま ちづくりの継続・発展において重要であるという視 点にたち, 長崎県島原市の先進事例をケーススタデ ィし, 地域力を高めるためのコミュニティ活動の役 割を詳細に調査し検討したものである。地域既存の コミュニティと新しいコミュニティがいかに関係を もつか, つながっていくかが重要であることを明らか にしている。
7. つながりから生まれるまちづくり 一長崎県島原市を事例として一	共	2003年05月2 6日	日本建築学会近畿支部 研究報告集, 計画系, 巻号: (43), ページ: 65 3-656	隈部裕子・西田徹・中山徹 自律的なまちづくりコミュニティと地域既存のコミ ュニティの秩序だった関係が, これからの自律的ま ちづくりの継続・発展において重要であるという視 点にたち, 長崎県島原市の先進事例をケーススタデ ィし, 地域力を高めるためのコミュニティ活動の役 割を詳細に調査し検討したものである。地域既存の コミュニティと新しいコミュニティがいかに関係を もつか, つながっていくかが重要であることを明らか にしている。
8. タウン情報誌と人とまちとの関係 フリーペーパーZa Beatを中心 に考える	共	2003年05月2 6日	日本建築学会近畿支部 研究報告集, 計画系, 巻号: (43), ページ : 37-40	加藤友理・大谷光一・西田徹 地域密着型フリーペーパーである「zabeat」という 小冊子を通して, 地域と個人とをつなぐ紙メディア の意味や役割を探ることを目的としている。このフ リーペーパーは, 一方方向の情報誌ではなく, 地域 内を活性化させるコミュニケーションツールとして の役割を持っていることを明らかにし, 今後のまち づくりの1つのツールとして有効であることを明らか にした。
9. 新潟市における環境行動的研究 その4: 郊外に居住する大学生の 生活の拡張について一	共	1999年07月3 0日	日本建築学会学術講演 梗概集. E-1, 建築計画 I, 巻号: 1999, ページ : 1057-1058	西田徹・稲井智子 地方都市の中心市街地から30分ほど離れた場所に立 地する大学周辺に住む大学生に対して生活行動を調 査し, どの様に自分の生活環境を拡張させているか を分析した。拡張に際して「友人」の存在は大きく , 自分ひとりでの行動がほぼ必要活動に限られてい ることがわかった。友人との関係をうまくとること が, 生活の拡張のきっかけをつくっていると言える 。
10. 新潟市における環境行動的研究 その5: ちょうどいい関係の構築 とそれが果たす役割	共	1999年07月3 0日	日本建築学会学術講演 梗概集. E-1, 建築計画 I, 巻号: 1999, ページ : 1059-1060	稲井智子・西田徹 同じ場所を共有する人と人とお互い適度なコミュ ニケーションを取ることで心地よいと感じている関 係を「ちょうどいい関係」と呼ぶこととする。ちょ うどいい関係を持続していく為に個人が環境に働き かけていること, 関係を助けてくれるものに注目し , その仕組みを明らかにしようとしたものである 。
11. 新潟市における環境行動的研究 その4: 育児をきっかけとした生 活の拡張に関する研究	共	1998年7月30 日	日本建築学会学術講演 梗概集. E-1, 巻号: 19 98, ページ: 977-978	阿知波修二・西田徹・大橋 昌毅 育児をきっかけに生活をより豊かにしている人に着 目し, その外出行動における環境との付き合い方を 明らかにしようとしたものである。
12. 新潟市における環境行動的研究 その3: 最適化行動が居住環境に 果たす役割と可能性	共	1998年07月3 0日	日本建築学会学術講演 梗概集. E-1, 巻号: 19 98, ページ: 975-976	大橋昌毅・西田徹・阿知波修二 個人は地域のアクセスポイントを利用する時, カス タマイズ行為を行い, 自分とその場との関係「スタ ンス」を形成する。またこのスタンスは一度に完成 するものではなく, それを最適化する「メンテナン ス」活動が重要であることがわかった。
13. 新潟市における環境行動的研究 その2: 犬の散歩を通してみる地	単	1997年07月3 0日	日本建築学会学術講演 梗概集. E-1, 建築計画	西田徹 そもそも犬の散歩は, 犬のために行う飼い主の義務

研究業績等に関する事項

著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
2. 学会発表				
域空間の価値			I, 巻号: 1997, ページ: 875-876	であるが、都市的コミュニケーションの発生を促す可能性を秘めている。犬を散歩することで生まれる、新たなまちの使い方や楽しみ方を整理したものである。
14. 新潟市における環境行動的研究	共	1996年07月30日	日本建築学会学術講演梗概集. E-1, 建築計画I, 巻号: 1996, ページ: 651-652	大橋昌毅・西田徹 新潟市在住の被験者に対して行った「環境行動マッピング調査」から、環境と行動との関係について、どのようなことが読み取れるかを試みたものである。
15. シークエンシャルな空間の認識に関する基礎研究	共	1995年07月20日	日本建築学会学術講演梗概集. E-1, 建築計画I, 巻号: 1995, ページ: 735-736	堀田俊則・西田徹 海岸線に沿った道のシークエンシャルな空間を人がどのような方法で認識しているかについて、プロトコル分析(言葉の抽出)によって明らかにしようと試みたものである。
16. 根津の地域研究: -その3- 集合住宅居住者と地域環境の関わり	共	1994年7月25日	日本建築学会学術講演梗概集. E, 建築計画, 農村計画, 巻号: 1994, ページ: 161-162	富田裕・高橋鷹志・西田徹・鈴木毅・橋弘志 下町地域に集合住宅居住者として住むことについて調査した結果をまとめたものである。居住年数や家族形態、年齢層からある程度、地域との関わり方に傾向が見られるものの、地域と積極的に関わりを持ち、愛着を感じている新住民も多数いることが確認された。特に、子どもがいる新住民では、地域に根ざした生活を送っており、その事によって、旧住民との間で葛藤の生じる可能性があることも確認された。
17. 根津の地域研究: その4. 地域空間における居住者と地域環境の関わり	共	1994年07月25日	日本建築学会学術講演梗概集. E, 建築計画, 農村計画, 巻号: 1994, ページ: 163-164	篠崎正彦・高橋鷹志・西田徹・鈴木毅・金 居住環境をどのように使っているか、都市居住者のモデルとして文京区の根津地域を対象に、アンケートとヒアリング調査を行い、居住様式の類型化から読み取れることを分析し、まとめたものである。高密度に集まって暮らしていくためのいくつかの知恵(適度な距離感を保つこと、住戸の開放性、自発的な助け合い)を確認することができた。
18. 住民主体のまちづくりの初期実践: 神楽坂地区まちづくりの会にみる	共	1994年07月25日	日本建築学会学術講演梗概集. F, 都市計画, 巻号: 1994, ページ: 739-740	永見真利子・西田徹・福田憲一・菊地潤・沖塩荘一郎 協議会方式のまちづくりの住民参加を形骸化させないためには、初期段階から様々な仕掛けが必要であることが重要である。住民の主体性が活性化されないと、多様な効果が生まれない。神楽坂地区は住民のまちづくりへの意識が高く、協議会の進行について現段階では問題はないが、財源や技術が必要となる活動や事業展開を行うためには、行政・町会・商店会・大学などとの更なる連携が必要と言える。
19. 俯瞰視点による地域把握に関する研究: 高層住居からの地域イメージの考察	共	1994年07月25日	日本建築学会学術講演梗概集. E, 建築計画巻号: 1994, ページ: 1063-1064	岩佐明彦・高橋鷹志・西田徹・鈴木毅・持丸伸吾 高層居住においては俯瞰を日常のものとするにより、その拡がりの中で自分を定位し、そこに含まれる情報を生活に取り入れていることが分かった。つまり、景観を単に眺めるだけのものとしてではなく、積極的に意味づけをしていることが分かった。今後、高層居住の発展により、高層居住者だけが持ちうる地域意識の発生や俯瞰視点レベルから生み出される、新しい都市デザインの可能性が考えられる。
20. 居住者による根津の地域イメージに関する研究: 人間-環境系としての地域に関する研究 その1	共	1993年07月25日	日本建築学会学術講演梗概集. E, 建築計画, 農村計画, 巻号: 1993, ページ: 93-94	持丸伸吾・西田徹・高橋鷹志・鈴木毅 居住者を被験者として、地域イメージの調査を行い、言語化と視覚表現により、根津地域における「パブリックイメージ」を描くことを目的としている。
21. 根津の地域研究 その2、様々なレベルをアフォードする地域空間	共	1993年07月25日	日本建築学会学術講演梗概集. E, 建築計画, 農村計画, 巻号: 1993, ページ: 91-92	西田徹・高橋鷹志・鈴木毅・篠崎正彦・橋弘志・市岡綾子・持丸伸吾 歴史性の強い都心居住区(根津地域)が、従来の下町の捉え方ではなく、総合的な生活行動環境として優れていることを、様々なレベルでの地域空間との関わりをアフォードしているという視点から分析を行っている。
22. ヒューマンスケールの街に関する基礎研究: その6. 神楽坂の路地における壁面後退及び敷地統合に関する印象度調査	共	1992年08月01日	日本建築学会学術講演梗概集. F, 都市計画巻号: 1992, ページ: 395-396	石原潔・沖塩荘一郎・西田徹 敷地の統合や壁面後退を行った建物は、神楽坂の最大の魅力である路地空間の魅力を失わせることが分かった。伝統的な情緒のあるヒューマンスケールなまちでは、壁面後退や敷地統合などを安易に行わず、昔からの道、地割り、スケール感といったものを大切に開発手法を考えることが重要と言える。
23. 根津の地域研究: その1. イメージによる地域構造分析	共	1992年08月01日	日本建築学会学術講演梗概集. E, 建築計画, 農村計画, 巻号: 1992, ページ: 67-68	西田徹, 高橋鷹志, 鈴木毅 地域のコンテクストを無視した開発行為が、開放性や自律性を壊しつつあり、現在の都市基盤は安定したものではないことを明らかにした。「次の都市単位、都市インフラを想定すること」、「まちの価値の言語化」のテーマを抽出した。
24. ヒューマンスケールの街に関する基礎研究: その5. 「ユーザー参	共	1991年08月01日	日本建築学会学術講演梗概集. F, 都市計画,	西田徹・沖塩荘一郎 神楽坂のまちの現状を、物理的・心理的側面から調

研究業績等に関する事項

著書、学術論文等の名称	単著・ 共著書別	発行又は 発表の年月	発行所、発表雑誌等 又は学会等の名称	概要
2. 学会発表				
加の街づくり」の素材の開発を通して			巻号：1991, ページ：19 1-192	査・分析を行い把握する。それを踏まえて、まちの構成要素を抽出し、ネットワーク分析を行う。これらを素材として、パソコンのハイパーカードの概念を用いて、パソコン上に再構築し、ユーザー参加型のメディアを提案したものである。
25. ヒューマンスケールの街に関する基礎研究：その3. パタン・ランゲージによる神楽坂像を通して	共	1990年09月01日	日本建築学会学術講演梗概集. F, 都市計画, 巻号：1990, ページ：42 1-422	西田徹・沖塩荘一郎・渡辺寛 パタン・ランゲージは、分析のためにつくられたものではないが、街の構造を知る一つの手段として、パタン・ランゲージを用いて分析することが有効な手法ではないかと考える。まず、街を形成するパタンを発見し、把握すること、次に、個々のパタンがどの様なつながりを持ち、機能しているかを知ることがかなりの部分当てはまるのではないかといえる。一見雑然とした街にも、複雑な秩序があり、それを解きほぐすことは容易ではない。本論は、パタン・ランゲージが分析ツールとしても有効なことを示したものである。
26. ヒューマンスケールの街に関する基礎研究：神楽坂境界の調査を通して	共	1989年09月01日	日本建築学会学術講演梗概集. F, 都市計画巻号：1989, ページ：1 43-144	西田徹・播直樹・仲隆介 今までのまちづくりを考える時、狭小敷地やペンシルビルは悪いこと、敷地を統合することは良いこととされてきた。しかし、敷地を統合し、昔の地割りを失った再開発は、歴史的雰囲気や情緒を根こそぎ失う場合が多い。神楽坂は、敷地も小さく、雑然としたまちではあるが、歴史と他のどこにもない場所の個性が感じられる。この街に対してどの様なイメージを抱いているかを、KJ法とイメージマップ調査から分析しようと試みたものである。
3. 総説				
4. 芸術（建築模型等含む）・スポーツ分野の業績				
1. 図書「まちの居場所 まちの居場所をみつける／つくる」の装丁	共	2010年11月	東洋書店	西田徹・西田有美 東洋書店から出版された図書「まちの居場所 まちの居場所をみつける／つくる」の装丁を手がける。
2. N邸の基本設計	単	2009年04月		西田徹 都市に開かれた住まいのあり方を考え、新しい都心居住の戸建て住宅の設計・管理を行う。3階建てのS造建築物。道路面に対する3層部分を全面ガラス張りとして視線が通るようにし、パブリックゾーンとして外部に対して開いている。
3. 東京国際フォーラム設計競技応募作品	共	1989年8月	東京国際フォーラム設計競技応募作品集 PP. 386-387	塚田幹夫・仲隆介・村井達也・西田徹 他多数 東京国際フォーラム設計競技応募した共同設計作品。 担当部分：基本設計および提出模型制作
4. SD Review, 1989入選 城南石油 新井給油所	共	1989年12月	SD 8912 特集 SD Review 1989, p. 149	寒竹伸一・西田徹・重田真弓 第8回のSD Review (実施を前提とした建築・インテリア・屋外空間の作品に賞を与えるもの) に応募し、入選したものの。 担当部分：基本設計およびプレゼンテーション用図面の作成。
5. 報告発表・翻訳・編集・座談会・討論・発表等				
1. 「地方における他地区購買の実態と心理評価に関する研究 札幌市を母都市とする石狩市と喜茂別町を例に」	共	2016年10月	日本建築学会技術報告集 第22巻 第52号 p. 1187	西田徹 西尾洗毅, 市村恒士, 大坂谷吉行, 真境名達哉による報告論文「地方における他地区購買の実態と心理評価に関する研究 札幌市を母都市とする石狩市と喜茂別町を例に」について評論をおこなったもの
2. 変わりゆく北欧社会において継承されているもの～社会システムと場所の質からよみとく北欧の「ふつつ」の生活その2～	共	2015年12月12日	日本建築学会 環境行動研究小委員会主催・公開研究会	水村容子・巖爽・伊藤俊介・垣野義典・橋弘志・石井敏・田中康裕・西田徹 社会制度や価値観が変化しつつある北欧諸国において、住宅地コミュニティ、精神疾患患者の生活を支える環境、図書館などを通して、その変化の状況と依然として受け継がれているライフスタイルや価値観の側面から、住まいや地域に関する法制度も含めた社会システムと場所の在り方について検討するものである。 担当部分：司会進行および主旨説明
3. 社会システムと場所の質からよみとく北欧の「ふつつ」の生活	共	2013年12月13日	日本建築学会 環境行動研究小委員会主催・公開研究会	北欧諸国に滞在し生活を経験した講師による研究成果を通じて、北欧諸国の社会システムと場所の質から、北欧の「ふつつ」の生活をよみとくこと、そして、より深く正確に北欧諸国の社会の特徴を伝え、それらの情報をもとに、日本のこれからの社会システム・場所の質を検討する。 担当部分：司会進行および主旨説明
4. 家を建てた方がいい	単	2010年09月	2010年度日本建築学会大会（北陸）建築計画部門「利用」の時代の建築	西田徹 空き屋が800万戸余っている時代、経済が停滞している時代に、リノベーションやコンバージョンなどの手法で、新たな用途を構想しまちを活性化すること

研究業績等に関する事項

著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
5. 報告発表・翻訳・編集・座談会・討論・発表等				
5. 「まちなかの居場所」をみんなで語る	共	2008年12月	学へー建築計画にとって何が課題になり得るか？－研究協議会資料 3章 資料 pp. 23-26 日本建築学会 建築計画委員会、計画基礎運営委員会、環境行動研究小委員会共同主催の公開研究会	が重要なのは言うまでもない。しかし、いつの時代も、スクラップ・アンド・ビルドによって、建築の新たな可能性を探って行くことも忘れてはならない。 田中康裕、大野隆造、岩佐明彦、松原茂樹、鈴木毅、伊藤俊介、橋弘志、横山ゆりか、西田徹 新しい社会の動きとしての「まちなかの居場所」の事例紹介を行い、新しい建築計画の構築に向けて議論を行った。 担当部分：司会進行
6. 街角の居場所の創出：実践者を迎えて(研究懇談会(2), 建築計画部門, 2005年度日本建築学会大会(近畿))	単	2006年2月20日	日本建築学会 建築雑誌 巻号：121(1542), ページ：60	西田徹 2005年度日本建築学会大会(近畿)における建築計画部門研究懇談会(2), 「街角の居場所の創出：実践者を迎えて」の内容について、報告としてまとめたもの。
7. まちづくりハウスにおける参加のデザイン～デザインゲームの方法	共	1992年08月	人間一環境系の計画理論のとらえ方(続), 日本建築学会建築計画委員会, 設計方法小委員会, 1992年度日本建築学会大会・北陸・研究協議会資料(建築計画部門), 3章 ケーススタディ pp. 65-76	門内輝之・西田徹 東京都の世田谷区で行われた, 公園のデザインコンペティションへの地元住民の参加プロセスを題材に, 主にデザインゲームの方法を採り上げ, 状況に根ざしたデザイン行為として分析を試みたものである。具体的なデザインの状況をめぐる住民と専門家の対話のプロセスを経て, 参加した人々のコミュニケーションの絆が強まり, 環境に対して理解が深まることを示している。 担当部分：共にインタビューを行い, 文書作成を行ったため抽出不能。
8. UDC 681.14 : 002 ハイパーメディア環境上にシティ・アドバイザーを構築する	単	1991年09月20日	日本建築学会 建築雑誌, 巻号：106(1317), ページ：71	西田徹 P. Christiansson : Building a city advisor in a 'hypermedia' environment [Environment and Planning B : Planning and Design, 1991, Vol. 18, pp. 39-50]についての文献抄録したもの。

6. 研究費の取得状況				
1. 現代日本の生活文化における食玩(おまけ)の位置 一食玩を通してみる時代と生活文化一	共	2005年04月から2006年03月	サントリー文化財団法人 人文科学・社会科学に関する研究助成	代表者：横川公子 分担者：森田雅子、西田徹、山本泉、北村薫子、櫻谷かおり、延藤久美子、岡田春香 本調査研究では、食玩の存在様態に注目することで、その生活文化学的な解明と検証を試み、現代日本の生活文化に関するひとつの切口と姿を提案することを目的としたものである。
2. 地域空間の環境行動的研究	共	1997年	文部省科学研究費・基盤研究(A)	研究代表者：高橋鷹志, 研究分担者：菊地茂朋・鈴木毅・西田徹 地域空間における人間-環境の対応関係として, 従来の割り当て的な計画モデルにおける単なる利用や接触を越えた, 地域の資源による生活の「支援(サポート)」概念の重要性について考察し, 今後の地域環境における施設や公共空間の計画論のあり方を論じたものである。

学会及び社会における活動等

年月日	事項
1. 2016年4月1日から現在	日本建築学会 「まちの居場所」研究WG 委員
2. 2016年4月1日から現在	日本建築学会 環境行動研究小委員会 委員
3. 2014年4月1日から2015年3月31日	大学基準協会 大学評価委員会大学評価分科会第35群委員
4. 2012年4月5日から現在	武庫川女子大学防犯パトロール隊 副隊長
5. 2012年4月1日から2016年3月31日	日本建築学会 計画基礎運営委員会 委員
6. 2012年4月1日から2016年3月31日	日本建築学会 環境行動研究小委員会主査
7. 2008年4月1日から2012年3月31日	日本建築学会 場所研究WG主査
8. 2008年4月1日から現在	日本建築学会 査読委員
9. 2006年04月から現在	道具学会 会員
10. 2004年4月1日から2012年3月31日	日本建築学会 環境行動研究小委員会 委員
11. 2004年04月から現在	人間環境学会 会員
12. 2002年4月1日から2016年3月31日	社団法人 住宅生産団体連合会 「L・S研究会」 サブプロデューサー
13. 2000年04月01日から2008年03月31日	日本建築学会 場所研究WG 委員
14. 1996年4月1日から2000年3月31日	日本建築学会 参加と創発のデザイン小委員会 委員
15. 1989年4月から現在	日本建築学会 正会員